

あかつき

小田原市議会議員
加藤仁司市政報告 R5 特別号

〒256-0803 小田原市中村原400
TEL:0465-43-0628
URL/https://katochan.info/
E-mail uin39360@nifty.com

特集 小田原市政について語る



やるべきこと、果たすべきことはある。

【加藤仁司プロフィール】

昭和36年10月小田原市生まれ
中村原在住
下中幼、下中小、橘中学校、神奈川県立足柄高校卒業（第一期生）
東海大学教養学部卒業
自民党衆議院議員故亀井善之秘書（10年7ヶ月勤務）
平成7年小田原市議会議員初当選（33歳）
当選7回
小田原市議会59代・62代議長
現在 総務常任委員会委員長
会派 誠風代表

かながわ民間教育協会顧問
小田原市日台友好議員連盟会長
小田原市防衛議員連盟会長
橘北地区青少年健全育成会副会長
自主防犯団体橘ブルーアイズ隊長

HP <https://katochan.info/>



今回は、一般質問等で質疑してきた内容ではなく（一部引用している部分もあり）、議員生活において感じていることや言いたいことを主に対話方式でお届けします。

問 七期二十八年間にわたり市政に携わって来られました。感想は？

答 余りにも長い年月なので一概に感想を聞かれても……。しかし、泡沫候補と言われた中で初当選した時の喜びは今でも忘れませんし、本市に関わる大きな課題解決に真剣に取り組んできた自負もあり、目の前にある問題や小田原市ならではの歴史や文化、自然を生かした市政運営に常に関わり発展を目指していく気概を常に持ち続けたこと、思いは変わっていません。これからも愚直に市政発展に寄与していきたいと思っています。この二十数年、世の中も目まぐるしく変わっている中で、議会も改革を進めてきた事は確かですが、よりよい市民生活に向けた活動をしてきたのか、いつも自問自答しています。まだまだやるべきことはあるというのが感想です。

問 現在、期数では最長老に位置していますが、これから市政を目指す人に言いたいことはありますか？

答 最長老と言っても、現在の現職の年齢では上から九番目です。横道にそれましたが、先ずは議会は各議員による協議制によって成り立っていると言う事を忘れてはならないと思います。自らの主

張は曲げる必要はありませんが、その意見がたとえ自分には最善と思っても違う意見の方もいるし、そこは堂々と議論し尽くす覚悟で臨んで欲しいです。それから、議員の質問は、生徒がわからないから先生に質問する事とは違い、わかっていることを質問すると言う事です。これは私も先輩議員から教わったのですが、施策や予算について、なぜ必要なのか？費用対効果等を聞くような質問をすべきと言われました。私も自身も日々気を付けているつもりですが、なかなか難問でもありません。

問 防災についてよく質問されていますが、訴えたいことは？

答 防災については特に関心を持っていません。最初の選挙は阪神大震災直後でした。その規模や甚大な被害を被った神戸や三宮の様子などの壊滅的な映像に接し、この関東でも大きな地震の被害に遭うかもしれないと感じました。直接現場に向いた現在防災、危機管理アドバイザーであるY氏に震災の状況を伺いながら、本市の防災施策について質していこうとの決意が生まれました。この時の話や中越地震の際、現地にボランティアで行った経験、また東日本大

震災や地震で何度かの非常召集時に役所に集合した体験から、常に非常時を想定した防災を心掛けています。

更に、いつも主張しているのは、「やはり、自分の身は自分で守る」ことです。非常時に備えた飲料水、排せつ物処理機材、寝具、着衣等、自分で用意することが先ず肝心です。全ての住民が被災時に広域避難所に集まるものではないかもしれません。住宅損壊や火災など避難を要する方々が利用すべきであって、自宅での生活が継続できる方は多少不自由であっても自宅での復旧復興を待つべきと考えます。また、これは既に様々な機会に



平成7年に発生した阪神大震災の様相

申し上げていますが、小田原市役所の七階会議室を整備して災害対策本部設置とする内容にはに疑義を唱えました。毎日様々な情報が飛び交い、席を立ったり移動し続けている担当者は発災後相当な体力を要します。エレベーターが動かなくなる事も想定したうえで災害対策本部設置を考えるべきです。議場は三階にあり、市長室もあります。通信機器や大型ビジョンも常に設備されてる議場も災害対策本部として検討するよう提言いたしました。

問 子育てについては何かありますか？

答 子育てについても関心が高い施策です。現在が少子化という深刻な状況にあることは周知のことだと思いますが、様々な観点で子育て施策が何故必要なのかお話しします。まずは年金という社会保障制度の仕組み上、少子化は次代の高齢者の保障が危ぶまれることに他ならないからであります。年金制度は現就労者等の保険料が高齢者の年金支給に充てられる賦課方式のため、少子化によつて保険料が減収した場合、年金支給額が少なくなるか、保険料を上げない限り現在の年金支給額維持が出来ない状況に陥ってしまう面があります。だからこそ出生率を上げる施策を考えるのですが、現在国や地方自治体の「少子化対策」は正しいのか

と言われると私は疑問を感じます。児童手当の所得制限議論や自治体間で運動会状態となつていく小児医療無料化年齢競争等が果たして出生率の増加に機能するのか、費用対効果を是非とも示してもらいたいと思いません。少子化はどの国も頭を悩ましていくようですが、所得制限を撤廃している国も出生率には特に影響がないデータもあると伺っています。経済的な助成も子供を産む環境を整える意味において好意的に受け止められることは間違いないのですが、出生率の増加の本質的解決策でない事は、我が国が貧しかった時代でも一定の出生率があり、多くの兄弟姉妹の下で子育てが行われていた私の母達の世代もあつたわけですから。

子育ての期間、特に乳児期は夜泣きだったり自分の時間が取れなかつたりして確かに精神的にも肉体的にも辛い時期はあると思います。しかし、成長していくことによつて言葉を発したり抱きついたりとおもしろい経験は誰にでもあります。歌にもあるように、「私達だけを頼りにしている寝顔のいじらしさ」は親子の絆を感じる至福の時です。今、子育て中の方々にその

ような喜びを感じる瞬間を伝えず
に、ただお金がかかるだとか大変
だと言いつつ聞いていく間は決して出
生率が上がっていくとは思えませ
ん。精神論を唱えるつもりはあり
ませんが、「子育てって楽しい
よ。子供の笑顔は何にも代えられ
ない。素晴らしい時間だよ」と
いった言葉を聞く機会も必要だと
思います。子育ての先輩の声をい
つでも誰でも聞ける提供の場を
行政が仕掛けていくことも考えた
いと思います。

**問 公営では初の認定こども園が
地元橋地区で始まるうとしてい
るようですが、その状況は？**

答 これも先日厚生文教常任委員
会で報告がありました。昨年十
二月に(仮称)橋地域認定こども
園整備基本計画が策定されまし
た。令和八年度の開園を目指して
これから整備に取り掛かるので
が、現在の下中幼稚園を解体して
新規の施設建設を行う必要あり
ます。下中幼稚園も在園してお
り、一時的に園児は別の場所に
通園する必要がありますが、教育
委員会からは酒匂幼稚園か休園中
の前幼稚園の二案が示されまし
た。保護者に見れば、遠くまで
送り迎えをしなければならぬ
状況や突然の話であった事から混
乱が生じました。議会でも質問い



今後解体予定の下中幼稚園

たしましたが、最終的には地元
の方々の要望が通って下中小学校の
敷地内での幼稚園機能継続が決
まった事で一安心しています。地
域事情で保育園が存在しておら
ず、他町に依存してきた地域の課
題が一つ解決に向けて動き出した
ことは喜ばしく思う所です。既に
幼稚園入園児が数人と寂しくなっ
てきた当地域に入園児定員九十二
人の認定こども園が出来ること
で、子供達のにぎやかな声が地域
にこだまする日が戻ってきて欲し
いと思います。

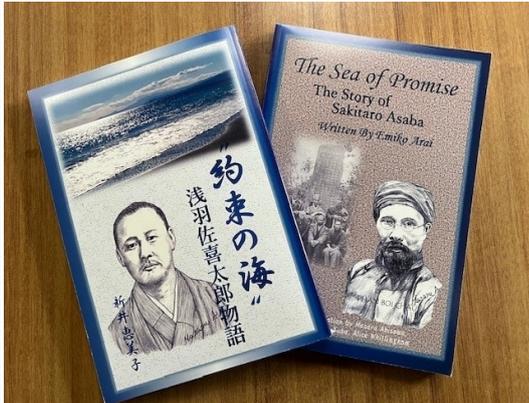
**問 議長時代は姉妹都市や友好都市
とも交流を重ねたと聞きましたが、
今後も続けていきますか？**

答 二宮尊徳翁生誕の地は小田
原市であり、終焉の地は現在
の日光市です。また、尊徳翁
が開墾や財政の立て直しをし
てきたゆかりの地の自治体が
全国報徳研究市町村協議会を
発足させ、毎年報徳サミット
が開催されており、何回も参
加させてもらっています。ゆか
りの地の議員とも交流を重
ね、今もお付き合いがある方
もおります。更には、八王子
市や寄居町等、北條五代のゆ
かりの地の方々とも交流の機
会を得、幅広いお付き

合いをしています。本市の偉
人や歴史は本市だけでなく多
くの自治体との関係も築いて
いることは大きな財産でもあ
ります。だからこそ、まだま
だ本市には他自治体にも影響
を与えた偉人が多く存在して
いるのではないかと市長に質
問をしてきました。片浦出身
の廣枝音右衛門は台湾出身の
部下から慕われつつも命を落
とし、今でも台湾では追悼式
典が行われている事。明治期
に前羽村(現前川地区)に診
療所を開設していた当時、浜
に横たわっていたベトナム独
立運動家の潘佩珠(ファン・
ボーイ・チャウ)を物心共に援

援

助し、勇気を与えた浅羽佐喜太
郎も小田原の歴史に埋もれたま
まではいけない人物の一人であ
ると取り上げました。時に、小
田原市教育委員会委員であった
本市出身の作家である新井恵美
子氏が「約束の海」浅羽佐喜太
郎物語」を出版し、浅羽氏の足
跡を追いかけていますし、今年
には二冊目の本が出版されると
も伺っているのが楽しみにして
いるところです。この二人は海
外が接点でもあり、台湾やベト
ナムと本市の交流もこれから進
んでいくべきだと思っていま
す。誇り高き人々が本市から
も傑出している事実を後世に伝
える意味から学校などで取り上
げて欲しいと願っています。



「約束の海」は市内書店にもあります



園遊会にて 安倍元総理を囲む妻と私

さようなら安倍元総理

昨年の参議院議員選挙の最中、奈良県での遊説演説中に凶弾に斃れた安倍元総理の事件は我が国だけではなく世界中の人々を驚かせました。犯人は直ぐに取り押さえられました。したが、その後の報道は何故か犯人の犯行動機のみが連日報じられ、更には国葬論議など、一国のそれも海外要人と堂々と対峙できる人物であり、労苦を惜しまず数々の功績を重ねてきた安倍元総理の偉業を完全に無視した偏向報道が余りにも目立った半年でした。安倍元総理には平成三十年四月に園遊会でお会いし、写真をお願いすると気さ

くに応じてもらいました。思想や信条が異なっていたとしても、人の死を悼み冥福を祈ることは日本人なら当たり前の行為です。安倍元総理の国葬の是非はともかく国葬が挙行された日もそうでしたが、八月十五日の靖国神社周辺でのデモも然り。更には八月六日や九日の原爆記念日にも鎮かに死者を慰霊するわけでもなくデモ行進に励む団体などとても信じられません。黙って手を合わせたらいかがでしょうか。

継続している防犯活動

橋北地区に自主防犯団体「ブルーアイズ」が誕生したのは今から十六年前です。小学校付近で不審者が目撃されたことから当時定時パトロールを実施していた橋北地区青少年健全育成協議会を主体に構成され、毎日の見回りを行ってきました。青パトによる巡回は全国的にもまだ浸透する前であり、警察署、関東運輸局に何度も足を運びながら小田原署管轄において第一号の青パト隊が発足しました。現在は四台のパトロール車を育成会メンバーと共に週一回の巡回を行っています。住民の

防犯意識を高めるために広報活動も同時に行い、詐欺や空き巣、車上荒らしへの注意を呼び掛けています。夜間における自転車の無灯火も多いため、同時に注意喚起も行っています。



ぴったりサービスで福祉分野をはじめとする行政手続きの簡素化を!

小田原市は窓口で「書かない窓口サービス」をスタートさせ、デジタル化を積極的に導入しています。しかしながら、まだ全庁的に様々な行政手続きが出来る訳では無く、現在は戸籍住民課窓口のみ対応できる状況です。より幅広いデジタル化を図

る意味で、平成三十年より国が運営する「ぴったりサービス」を導入して、より効率的に運営すべきであると提案しています。国内でもいくつかの自治体が導入していますが、本市が導入した場合、電子署名が必要な医療費助成や児童手当の交付申請、介護認定等介護関係申請や被災者支援に関わる申請等の行政手続きをオンライン化することが可能です。

デジタル化というと難しく敬遠される向きもあるかと思いますが、慣れれば当たり前になる事は、パソコンやスマホの普及率を見れば明らかです。議会においても四年度から議員全員にタブレットが配付され、議案書も紙から画像での扱いとなったため、現在も四苦八苦しながらも徐々に慣れるよう努力しています。私の目標は、行政手続きは自宅や職場で完結できる、すなわちスマホでも手続き可能な社会の到来です。マイナンバーカードによる本人認識の確認から十分なセキュリティの確実性などまだまだ越えなければならぬハードルはあると思いますが、より便利で快適な市民生活が送れることを目指します。やらなければならぬ仕事は山積しています。デジタル活用推進にこれからも全力を傾注してまいります。